

令和元年度青森県薬剤師会定時総会開催

令和元年初の総会が6月15日15時30分から、ウェディングプラザアラスカ・サファイアの間で開催されました。

開会に先立ち木村隆次会長より、新年度が始まり、青森県、青森大学と青森県薬剤師会が共同作業による薬剤師を目指す高校生の増加を目指すことを新規事業に加えることを紹介されました。また、医薬品医療機器等に関する法律の改正案、再来年の4月から知事認定の薬局機能を示した「高度医療型薬局」「地域連携薬局」の支援など、薬局を取り巻く状況を踏まえ今年度の薬剤師会事業への取組を紹介し総会の議案である昨年度の決算のご承認・審議をいただきたい旨挨拶をされた。

次に、会員表彰が執り行われた。

会員表彰（敬称略）

会員特別表彰

小笠原恵子、金田一成子、栗山稔、八木橋雄一

日本薬剤師会有功賞

岩崎敦子、玉懸義和、南正道

永年会員表彰

青木悟他 16名

来賓祝辞を青森県健康福祉部部長有賀玲子様からいただいた後、小池智彦氏を議長に、西川哲史氏を副議長に選出し進行した。

始めに、坂井義人常務理事が総正会員数1,474名のうち総会出席者数34名、委任状提出者数825名、合計859名、本会定款第18条に規定する要件である正会員の過半数が出席しており、本総会における議決は有効であることを報告した。

続いて、工藤良一郎氏と福田ひかる氏を議事録署名人に指名して議事の審議に入った。

報告第1号 平成30年度会務に関する事項

青森県薬剤師会会務報告、支部活動報告、部会活動報告、委員会報告について、河原木専務理事から総会資料に基づき一括報告および木村会長から補足説明された。

また、2018年4月1日から6月30日までは本会が運営し7月2日から一般財団法人青森県薬剤師会食と水の検査センターで発足し、現在、財団として運営されているが、移行にあたり、譲渡手続きに関しては、昨年度の総会でお認めいただいた内容が、計画通り進んでいることが報告された。

報告第2号 日本薬剤師会総会に関する事項

磯木雄之輔日本薬剤師会代議員から報告された。平成30年6月23日、24日開催され、議題は提出議案通り可決、承認された。さらに、第92回日本薬剤師会臨時総会が平成31年3月9日、10日に開催され、同様に提出議案通り可決、承認された。冒頭、山本信夫日本薬剤師会長の陳述において、これからの日本薬剤師会の方向性が示された。なお、会議の詳細は、日薬雑誌2018年9月号、2019年6月号を参照していただきたい旨補足説明した。

報告第 3 号 令和元年度事業計画に関する事項

木村隆次会長から令和元年度事業計画の基本方針について、総会資料に基づき説明があった。薬局と薬剤師は、住民・患者から信頼されて選ばれる「かかりつけ」としての機能と役割を充実・強化し、市町村において日常生活圏域で構築される「地域包括ケアシステム」の一翼を担い、期待される役割を果していかなければならない。青森県の薬剤師数は、人口 10 万人あたりで全国 2 番目に少ない状況です。これを改善するために青森県、青森大学、青森県病院薬剤師会、地域薬剤師会、当会支部と協力して薬剤師養成・確保をするための事業を進めます。

医薬品医療機器等法律改正に伴い在宅医療への対応や関係機関等との情報連携に主体的な役割を担う薬局と高い専門性に基づく薬学的管理や特殊な調剤に対応できる薬局に分類がされます。前者の地域密着型（在宅医療）薬局に全薬局が認定されるために一般用医薬品、健康食品等の相談販売、薬剤師の認知症対応力向上のための研修などを開催し『まちかどセルフチェック「健康介護まちかど相談薬局」』をより充実させます。

薬局が「あおもりメディカルネット」に参加して青森県立中央病院などの疾患名、検査データなど ICT を活用した薬剤管理を進めます。

地域住民、保険調剤を通じて来局する患者、入院中の患者と薬剤師との距離を縮めること、患者からの信頼を得ることを念頭において、医薬品の一元的・継続的な薬学的管理・指導と医薬品などの供給と地域包括ケアシステムの中で地域住民の相談役として役割を担う、かかりつけ薬剤師・薬局の普及を図るとともに、患者の医療安全確保のため、薬局薬剤師と病院（診療所）薬剤師の連携を一層推進します。

以上の観点から、以下に掲げる事項に取り組むことが説明された。

I 重点事業

1. 薬剤師確保事業
2. 青森県薬剤師会ホームページの充実等で薬剤師職能の県民への広報強化
3. 第 7 次青森県保健医療計画、第 2 次健康あおもり 21、あおもり高齢者すこやか自立プラン 2018 に対する 2 次保健医療圏域ごとの対応支援
4. 健康介護まちかど相談薬局（まちかどセルフチェック）事業の充実
5. お薬手帳の普及による医薬品の適正使用の推進及び ICT を活用した医療・介護連携の推進
6. かかりつけ薬剤師・薬局定着促進

以上、重点事業 6 項目、その他事業 5 項目を平成 31 年 3 月理事会で決定し、現在、進めているところである旨説明があった。

報告第 4 号 令和元年度収支予算に関する事項

河原木智専務理事から、法人会計、収益会計の合計額で主要な点について説明があった。経常収益の調剤報酬、受取会費の金額報告があった。また、経常費用について、事業費、管理費の金額の説明があり、その中で修繕費について青森県薬剤師会館の受変電設備の改修工事のため予算が高く計上されている旨説明があった。経常費用合計、当期一般正味財産増減額の説明がされた。

以上、報告第 1 号平成 30 年度会務に関する事項、報告第 2 号日本薬剤師会総会に関する事項、報告第 3 号令和元年度事業計画に関する事項及び報告第 4 号令和元年

度収支予算に関する事項は異義なく承認された。

議案第 1 号 平成 30 年度歳入歳出決算に関する件

河原木智専務理事から、平成 30 年度正味財産増減計算書内訳表に基づき報告があった。初めに衛生検査センターについて、4 月 1 日から 6 月 30 日の 3 か月間の決算であることが説明された。その後、経常収益について調剤報酬、会費収入の金額、経常収益合計額が報告された。次に、経常費用の事業費支出額、管理費支出額、経常費用合計額が報告され、修繕費の増額について、青森県薬剤師会館外壁塗装改修工事、外構改修工事、3 階トイレ改修工事を施工した旨説明があった。また、経常外費用合計額、当期一般正味財産増減額、正味財産期末残高の報告があった。

次に、平成 30 年度収支決算内訳表に基づき、一般社団法人は公益会計基準で運営しているが、公益事業が 50.1%以上の会計でなければならない。経常費用合計 63,609 千円のうち公益事業が 42,883 千円であり、67.4%で基準をクリアしているとの補足説明があった。

続いて齋藤士郎監事から、令和元年 5 月 9 日澤上大樹監事と職務執行状況並びに会計について監査した結果、平成 30 年度決算報告書は法令及び定款に従い、財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。また会務報告及び事業報告書は、法令及び定款に従い、会の状況を正しく示しているものと認める旨監査結果の報告があった後、議案第 1 号平成 30 年度歳入歳出決算に関する件は全員異議なく承認された。

以上をもって、報告・議案の審議を終了し、16 時 20 分議長が閉会を宣し、令和元年度の定時総会が終了した。



青森県健康福祉部 部長 有賀 玲子 様



木村 隆次会長



南 正道 先生



板澤 雅人 先生



小笠原 恵子 先生



金田一 成子 先生



議長 小池 智彦 先生 副議長 西川 哲史 先生